

# 岡崎城だより

No. 9  
2026.5



## 令和7年度実施事業の成果



写真1 たつきぼり 龍城堀南面からの眺望

### I. はじめに

『岡崎城跡整備基本計画-平成28年度改訂版-』(H29.3)の策定から9年目の令和7年度は、例年実施している石垣点検等の事業をはじめ、龍城堀の整備工事や菅生曲輪の試掘調査を行いました。

明治維新後、廃城や戦災により岡崎城の建物は失われました。そのような時代を経てなお、堀や石垣は保存され、現在まで岡崎城の歴史を伝えています。龍城堀の整備は、現在も残る貴重な歴史文化遺産を活かし、歴史を身近に感じられることを目的とした取り組みです。

今回は、令和7年度に岡崎城内で実施した事業について、ご紹介します。



図1 岡崎城郭図と令和7年度新規事業地点

## II. 整備事業

龍城堀は、風呂谷曲輪と隠居曲輪に沿って築かれた水堀です。

中世の城郭は、曲線的な形をした曲輪が多く見られます。対して、近世では直線を多用するように変化してきました。龍城堀を構成する隠居曲輪は中世の特徴がよく表れた半円形、風呂谷曲輪は近世の特徴である直線部と隅角部※1が多用されています。

一つの堀で両方の特徴を有するのは全国的にも貴重な事例です。



図2 水野家時代(1645～1762)「岡崎城図」から抜粋

### 龍城堀石垣修復

令和5年4月9日、岡崎城内に唯一残る水堀、龍城堀南面の一部で、石垣崩落が発生しました。その後、崩落の原因究明と石垣構造の解明を目的とした発掘調査（岡崎城だより No. 8 参照）を行い、その成果や崩落前の写真に基づいて石垣の積直しを行いました。

築石※2の背後には裏込め石※3を入れて背後から支え、雨等を排水する機能が必要です。しかし、今回の石垣にそのような構造は見られず、築石の背後は土や瓦礫が用いられたため、すき間が多く見られました。更に、土砂に空洞ができてしまったため、石垣の重量を支えられず、築石が傾いた「孕み出し」が生じていました。

そこで、積直しの際には正常な角度に築石を積み上げ、新たに裏込め石をしっかりと詰めて補強しました。



写真2 石垣積み直し状況

### 展望デッキ設置

石垣を積み直した後、園路から堀のすぐ手前まで近づくことができる展望デッキを2か所設置しました。（図2の整備箇所）

展望デッキから正面を見れば、風呂谷曲輪に沿って幾重に折れ曲がる「屏風折り」の石垣を、右手には隠居曲輪に沿って曲線を描く石垣を眺めることができます。

また、龍城堀は城内に現在も残った唯一の水堀で、デッキからは亀や鯉等の水棲生物、時にはカワセミやマガモ等の鳥類が羽を休める姿を見ることができます。



写真3 展望デッキ設置完了(隠居曲輪から望む)

## III. 調査事業

菅生曲輪の南西側、東曲輪の北側の2か所で、遺構の残存状況を確認するための試掘調査を実施しました。

### 菅生曲輪試掘調査

菅生曲輪の南西側は、水野家時代には堀沿いに石垣や屋敷の地割が描かれています（図3）。



図3 試掘箇所位置図

今回の調査では、3か所の試掘坑を設定して調査を行いました。

その結果、地表面から約0.6mの深さまでは近現代に整地された土砂が堆積しており、その下



写真4 遺構検出状況

面で柱穴や遺物が確認されました。柱穴の時代は不明ですが、この遺構検出面で遺跡が広がるものと考えられます。

## 東曲輪試掘調査

東曲輪の北東角は、水野家時代には土塀や埋門が描かれています（図4）。

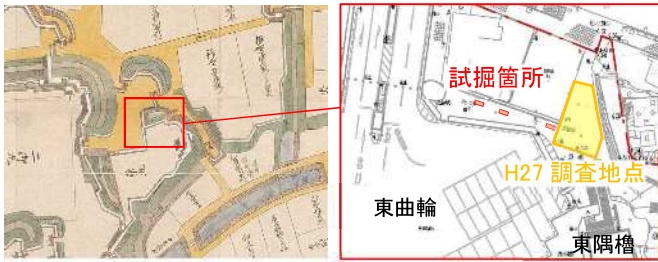


図4 試掘箇所位置図

今回の調査では、3か所の試掘坑を設定して調査を行いました。

その結果、地表面から約0.3mの深さで、安定した基盤層※4が確認されました。平成27年にすぐ東側で行われた調査では、この基盤層上面に江戸時代の遺構が検出されていることから、試掘箇所一帯でも遺跡が広がるものと考えられます。



写真5 基盤層検出状況



写真6 平成27年度調査

- ※1 隅角部：石垣等の構造物の角部
- ※2 築石：石垣の前面を構成する大型の石
- ※3 裏込め石：石垣の背後を構成する小ぶりの石
- ※4 基盤層：建物を支える固い地盤

## Ⅲ. 石垣保存修理事業

### 石垣き損樹木伐採・測量等

『岡崎城跡石垣保存修理基本計画』(H30.3)に基づき、石垣をき損する樹木の伐採、石垣測量、石垣変位計測、石垣点検を行いました。

#### (1) 石垣き損樹木伐採（図5●）

石垣き損樹木とは、石垣の天端や側面に生育し、石垣に悪い変状をきたす樹木を指します。これらの伐採を平成30年度に開始し、令和7年度は21本の伐採を行いました。これにより合計110本の伐採を終えました。

#### (2) 石垣計測

##### 石垣測量（図5—）

岡崎城内の石垣は全部で224面あります。石垣測量図は、万が一石垣が崩落してしまった際の石垣修復に必要な基礎資料になります。

令和7年度は49面で石垣測量を行いました。なお、石垣測量については、令和8年度に完了の見込みです。

## 石垣変位計測（図5◆）

石垣は木の根による内側からの圧力や、気温・湿度など様々な要因で膨らんだり、石が落ちたりすることがあります。計測は危険度A（現状で石垣の変状が著しく、利用形態上の危険性が高い石垣）と判定された8か所に対し、レーザースキャンによる高精度の計測を行い、危険な変化が起こっていないかを年4回確認しています。結果、今年度の計測時には石垣に大きな変状は見られませんでした。

## 石垣点検

石垣点検は、危険度A判定以外の石垣に対しても、機器（クラックゲージ、ガラス棒）を設置して、年4回点検する作業です。月見櫓台石垣においてガラス棒の割れが確認されましたが、現場視認したところ、石垣の孕み出しの悪化のような危険な変化は認められませんでした。

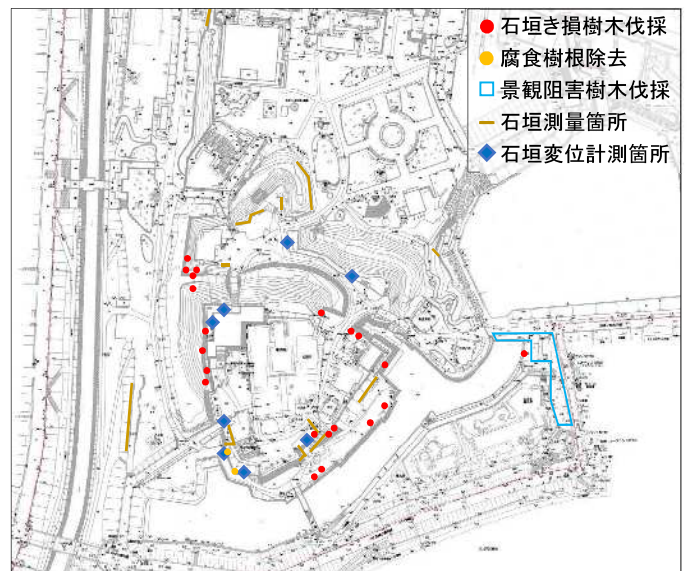


図5 石垣保存修理事業箇所

## Ⅳ. その他の事業

### 景観阻害樹木伐採（図5□）

景観を阻害する樹木の伐採が行われました。石垣き損樹木と景観阻害樹木の伐採により、本丸御門前や殿橋から天守がよく見えるようになり、龍城堀では、堀の東側から曲線的な隠居曲輪石垣や水堀を見られるようになりました。



写真7 天守、龍城堀の新たな眺望

**付録 民間発掘調査事業**

**岡崎城下町遺跡発掘調査（康生南通2丁目）**

岡崎城公園から東へ約300mの地点、民間の開発行為に先立ち、岡崎城下町で発掘調査が行われました。



図6 発掘調査位置図

**(1) 調査地の概要**

調査地は岡崎城公園から少し離れていますが、江戸時代は岡崎城総堀の内側でした（図6・7）。

徳川家康の祖父、松平清康が安祥城（現安城市）から岡崎城へ移った後、天文元年（1532）に善立寺（現在は祐金町に移転）も安城から移されました。調査地周辺には、岡崎松平家に関係が深い善立寺があったものと考えられています。

また、江戸時代中期の絵図では、整然と土地が区割られ、縦長の武家屋敷が配されています。東側には道や屋根のある土塀も描かれています。



図7 江戸時代中期の絵図

**(2) 調査成果**

現在の地面から深さ約3.0mまでは、近現代の土砂が堆積していました。その下面からは、主に以下の遺構が発見されました（写真8～12）。



写真8 調査区遠景

- ① 沈み込み防止の横木（胴木）を敷いた石垣
- ② 排水や区画のための溝が付属した道路
- ③ ②の道路と同じ角度の柱穴群や掘立柱建物
- ④ 石垣下面から発見された（=石垣より古い）土坑群
- ⑤ 4基の大型柱穴（善立寺に関係する可能性あり）

道路は固い地面の上に細かな砂利を敷き、更にもその上に粘土状の粒子が細かい土を敷いて造られていま

す。非常に丁寧に造られた道路です。

石垣は幅約8m、高さ約1mで30石程度が残存していました。胴木を科学分析したところ、江戸時代後期から明治時代に伐採された可能性があることが分かりました。

現在、発掘調査成果を整理して報告書を執筆中です。報告書の完成後は、ぜひ図書館等でご覧ください。

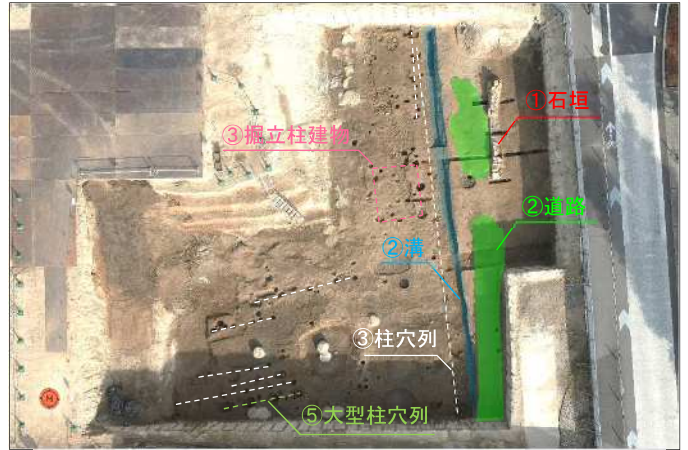


写真9 調査区1面俯瞰写真（写真の上が北）



写真10 新発見の石垣



写真11 大型柱穴 写真12 道路遺構断面

**●岡崎城だよりのバックナンバー**

巻数	発行年月	主なテーマ
No.1	2017年11月	岡崎城だよりに発行スタート！月見櫓の遺構を発見
No.2	2019年3月	天守台石垣の調査で、「三葉葵紋金箔瓦」大発見
No.3	2020年3月	清海堀の調査で、絵図に無い未知の石垣発見
No.4	2021年3月	坂谷曲輪の1次調査！菅生川端石垣の整備も実施
No.5	2022年4月	菅生川端石垣の整備完了！その矢先、南切通しの石垣が崩落
No.6	2024年6月	南切通しの石垣積直しに向けて発掘調査。そして積直し開始
No.7	2024年6月	坂谷曲輪の2次調査！門の基礎構造を大解明！
No.8	2025年5月	龍城堀石垣の調査！石垣を守り残すための地道な一歩！

岡崎城だよりのバックナンバーは、このQRコードからご覧いただけます。



岡崎城だよりの No.9

発行年月日 令和8年5月25日  
 編集・発行 〒444-8601 岡崎市十王町2-9  
 岡崎市教育委員会社会教育課  
 TEL: 0564-23-7270